

2021年5月18日

2021年度 審査委員ダイバーシティ方針

1961年の第一回開催以来続いてきた ACC CM フェスティバルは、2017年に ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS と名称変更をし、その対象を広告コミュニケーションの世界から「クリエイティビティのチカラで様々な課題を解決すること全般」へと拡張してきました。

昨年開催した TOKYO CREATIVE CROSSING では全カテゴリーの審査委員長が参加し、クリエイティビティの未来について議論が行われました。

その中で ACC の今後の活動によりダイバーシティの視点を強化していくべきだという提言がなされ、ダイバーシティはクリエイティビティを生み出す重要な要素である、異なるバックグラウンドをもった人たちの議論を通じて新しい発想が生まれるなど、活発な議論が行われました。

そこで、ACC は本年度まず、ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS の審査委員の選定に関して、よりダイバーシティを意識した構成の実現を目指すことにいたします。

2020年度の ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS での女性審査委員の割合は徐々に増え、全体で37%となっているものの、部門別に見てみると7部門中3部門が20%台でした。また、グローバルな情報発信が当たり前のいま、世界の多様な文化を理解する視点をもつ審査委員の選定も重要だと考えています。

我々、ACC は本年の審査委員選定に関して

- a) 審査委員長・審査委員のジェンダーのダイバーシティ
- b) 国籍・人種・文化のダイバーシティ
- c) 業界や職種のダイバーシティ
- d) 年代のダイバーシティ

について配慮し「クリエイティビティとコミュニケーションの専門性と多様性の両者を担保できる人選」を行っていくよう努力します。

また、ダイバーシティの実現のためには、審査委員の構成ということに留まらず、クリエイティブな仕事に携わる人たちのダイバーシティをいかに作り出してゆくかという議論が必要ということは言うまでもなく、それらについての議論やアクションに引き続き取り組んでゆきます。